

京都市中央卸売市場第二市場運営協議会 会議録

平成27年5月29日（金）午後2時～

日 時 平成27年5月29日（金）午後2時から午後3時10分まで
場 所 京都市中央卸売市場第二市場 2階会議室
出席委員 大西雷三, 佐川早苗, 水流添敦, 中野比佐子, 新山陽子, 宮田正美, 山田保
欠席委員 魚山栄子, 増田佳昭

委員9名中7名出席により, 会議成立を報告。

議事1「会長の選任」

「新山委員を推薦する。」との発言があり, 他委員の承諾を得て, 会長に就任。
会長から「職務代理に, 増田委員をお願いする。」との発言を他委員も承諾。

議事2の前に, 資料3「第二市場の概要」を報告。

議事2「第二市場の取引状況について」

資料4, 5（第二市場の取引状況（平成25年度, 平成26年度））により報告。

全国的に減少傾向の中, 第二市場の取引状況は増加傾向。

○ 平成25年度, 26年度と取引が増加し, 価格も上昇している。今後の予想はどうか。

市 牛については, 子牛価格の上昇, 輸入飼料の円安による高値などにより, 肥育頭数が減少しているため, しばらくは高値が続くと考える。

豚については, PED（豚流行性下痢症）の全国的な発生により, 一時, 生産数が減少し, 取引が高値となったが, 生産も回復基調となり, 今後は落ち着くものと考える。

○ 第二市場では, 集荷の状況はどうか。

市 卸売会社が肥育農家を訪問し, 新規の出荷要請や, 過去に出荷があった農場へ再度の出荷要請を行っている。その際には市職員も同行するようにしている。

公正な取引がされることで, 出荷者の信頼を得ると考える。また, 買参人にも豊富な集荷により, せりに多く参加してもらえと考えられ, 両方への取組が必要である。

○ 市も出荷者訪問に同行して頂き, 効果があがっている。

A2, A3の牛も価格が上昇し, 高値安定となっており, 買参人の皆様には感謝している。

以前は, 京都, 鹿児島等の銘柄牛だけが高値だったが, 現在は, 全般的な高値となっている。

市 出荷者の経営状況は厳しいが, 第二市場の新施設については, 注目している状況。

すぐに出荷には結びつかなくても, 今後も卸売会社に同行し, 出荷要請していきたい。

○ 京都に来る牛や豚が少なくなれば価格はあがるのか。

市 京都だけでなく, 全国的な状況として価格はあがることになる。

牛は, 全国的に肥育頭数が減少している結果, 取引価格が上昇している。

○ 建替えにより集荷効果があるとのことだが, 現状の施設で努力できないのか。

市 全国的に落ち込む中, 京都市場は増加している。

現在の施設は、建築後46年経過している。現在も衛生面で問題はないが、新施設になれば、これまで以上に高度な衛生管理ができるため、出荷者もより安心する。

- 新施設は、輸出にも対応できる。
- 頭数が少ないのに、輸出できるのか。
- 日本は、少子高齢化を迎え、高級肉が伸び悩んでいる。そこで輸出を考えることにしたが、思った以上に生産頭数が減少した。
- 輸出は、生産頭数とも関係するが、輸出できる施設でないと、いざというときに対応できない。
- 市 先月、農林水産省が、輸出に関して調査したレポートがあるが、欧米の高級志向に対応した高級嗜好品として販売することになるのではないかと、報告している。
- 若い母親は、低価格重視で外国産牛を買う。ブランド牛には手が出ない。
- あまり価格が低いと、生産者が立ち行かなくなる。生産ができる価格であることが必要だ。
- 取引価格が高くなっても、生産者はもうかっていない。高いエサ、子牛価格が上がっている。生産者は赤字で、悪循環となっていて、どこもが苦勞している。
- 子牛農家が減少している。子牛農家を自治体が育てることも考える必要がある。

議事3「第二市場マスタープランの進ちょく状況」

資料6により、概要を説明。

資料7により、進ちょく状況を報告。

- 輸出認証は、いつ頃を予定しているのか。
- 市 卸売会社では、既にハサップに準じた衛生管理に取り組み、今年、品質管理部を設立した。
新施設は平成30年度に稼働予定。欧米向け輸出認証を得るためには新施設稼働後、2、3年のハサップ実績が必要。比較的規制のゆるいアジア圏は、平成31年か32年で輸出が可能で、稼働後、速やかに輸出認定を進めて行きたい。欧米は早ければ32年、遅くとも33年には認証取得できるようにしたい。
- ハラールは、考えていないのか。
- 市 ハラールと欧米では動物福祉の考え方が全く違うので、同じ施設で認証取得することは難しい。
市場が広い欧米への輸出を考えていく。
国内向けのハラールは、研究する必要があると考えているが、同じ施設で欧米とハラールの同時取得は難しいと考える。
- 早く認証取得するようお願いしたい。
- 頭数が少ないのに、輸出できるのか。
- 国内と海外では需要が違うので、輸出量は多くないが、対応は可能。
- 頭数減少の中、輸出へ回せる分は心配している。
- 市 農水省が輸出に向けて調査し、高級な嗜好品としての需要が望めるとしている。
海外の高級レストランで需要があると考え。欧米ではロース、サーロイン、ヒレに人気がある。
国内では高価な部位は動きがにぶいと聞いており、販売先を分けることが考えられる。

議事4「第二市場の施設再整備について」

資料8、1階平面図、2階平面図により説明。

- 余剰地の利用予定は、あるのか。

市 現在，売却を考えている。その売却益を整備財源にする予定。

○ 飲食や販売を行うなど，観光客が来て収益があがるような施設があれば良い。例えば，買参組合員に貸して，家賃収入を得る方法もあると思うがどうか。

市 土地の有効活用を行い，収入を得ることもあり得る。提案があれば検討していく。

○ 第一市場では，整備エリアのなかで賑わい施設を計画している。第二市場でも検討してみてもよい。

○ 見学者に販売できるような賑わい施設があればよい。提案していきたい。

○ 三重県の松坂のと畜場は，見学対応している。

○ 交通の便を良くして欲しい。ミートフェアでも車がないと来れない。松坂ではシャトルバス対応していた。シャトルバスなどイベント時だけでも必要。

市 交通局とも連携して，シャトルバスなども検討したい。